

伝えよう・広げよう・正義と平和を

平和・人権  
社会と教会  
生活と信仰  
分かち合い

No.35

# 共に生きる

編集／〒806-0049 北九州市八幡西区穴生1-8-10／瀬下幸弘 FAX093-622-1290

ながつき  
長月  
9  
2013

平和学習の教材として  
画期的絵本ができました。

長崎文献社より  
7月31日発行  
白濱さんが  
紹介されました。



長崎原爆の被害者であり、その語り部として永年活動されている白濱清太郎さんが、絵本の紹介をされました。松江市では、はだしのゲンが閲覧制限されるような事態が起こっています。こういう日本社会になりつつあるからこそ、原爆の惨状を風化させない取り組みが増々重要です。

長崎の原爆被爆の惨状を風化させず、  
語り継ぐための絵物語。

長崎市長 政府の矛盾を指摘

田上市長の平和宣言は平和を願う全ての人々を奮い立たせてくれたようです。「むごい兵器をつくったのは人間です。核実験を繰り返し地球を汚染し続けているのも人間です。だからこそ立ち返るべき原点を折にふれ確かめなければなりません」と述べ、日本政府が原点に返ることを求めました。そして、今年4月の核不拡散条約で「いかなる状況においても核兵器を使うべきではない」との文言が含まれています。何故唯一の被爆国でありながら署名できなかつたことを痛烈に批判しています。安倍政権の矛盾をはつきりと指摘したあと、政府にも市民もできることを述べました。心から拍手を送りたい。  
（編集部）

「日本政府に、被爆国としての

原点に返ることを求めます。」

8月9日

長崎平和宣言

ときのことば

わたしたち被爆者はうったえます。いのちのあるかぎりうったえづけます。

ノーモア=ヒロシマ(ヒロシマはごめんだ)

ノーモア=ナガサキ(ナガサキはごめんだ)

ノーモア=ヒバクシャ(被爆者はごめんだ)

ノーモア=ウォー(戦争はごめんだ)

1982年国連軍縮特別総会で山口仙二さんの訴え

援助修道会 修道院より

9月11日：イチイチ祈りの会

場所は修道院聖堂、午後7時から。  
どなたでもお出でください。

# 第13回 北九州平和の集い “平和への努力は時のしるし” 8月3日 小倉教会



分かち合のひととき

## 虹の会

7月28日 19名参加

### 平和旬間にむけて 『核と命を考える』

「戦争を体験された方の貴重なお話を聞いて分かち合いました。

原爆を受けながらも、明るくひたむきに、力強く生きておられる姿からキリストの姿が見えてきました。

「戦争が終わって本当に嬉しかった。憲法九条ができるで更に嬉しかった。福音と同じくらい大切にしたいと思った。」という言葉が心に深く残りました。

憲法九条が脅かされようとしている今、私達にできることは何か。それぞれが真剣に考え、誓いを新た

に出発した一日でした。」

また、虹の会の仲間から次のようなアイデアをいただきました。

——来月の虹の会(9月22日)は、親睦会も含めて昼食をとりながらの会にしたいと思います。親睦会に参加される方は当日お弁当の注文も受け付けます。親睦会に参加される方もされない方も、ぜひ気軽に立ち寄ってみて下さい。——

どなたでもご参加ください。

# ノーモアヒバクシャ 被爆からの手紙

## 白濱清太郎さん手記

(NHK広島放送局に投稿された手紙です。2回連続)



### 「21才で旅立った姉へ」

15才になったところで、どうせ徴用にとられるなら長崎で三菱に入らないかと三菱製鋼に勤めていた姉の誘いに、五島列島の小島で転馬船をあやつるイカ釣漁をやめ、長崎に向かい三菱兵器に入社した。間もなく湿性肋膜にかかり帰郷、療養につとめる(約10ヶ月)。快癒したので職場に復帰。17日目に工場内(鉄筋コンクリート)にて窓の外に白色の光線を見た。轟音と共に窓枠は突き破った爆風で床上に叩きつけられ、上半身裸体だったため背中に小石の粒をぶつけられた衝撃と共に熱風が吹き抜けた。

我に返り、起き上がってみると、窓枠は吹っ飛び、工場内は足の踏み場もなく散乱、仲間があちこちに転がっている。「おーい、大丈夫か」と声をかけながら室外に出ようと正面玄関に向かうも、ヒサシが崩れて垂れ下がり、わずかな隙間しかなく引き返し、工作部品を足場に窓より降りる。外は砂煙が舞い上がり、視界が効かない。

立ちつくしていると、いくらか視界が開け周囲の民家、校庭の木立、電柱、すべてなぎ倒され、付近の民家はただの一軒もあとかたなく、まるで箒(ほうき)ではいたような広場と化している。100mぐらい先に防空壕が見える。めざすうちに背中に生ぬるいものが流れる。

掌(てのひら)を後ろにまわすと鮮血で真っ赤に染まる。防空壕についたが次々にあちこちより、衣服はボロボロ、皮膚は焼けただれ、口々に水、水と訴えながら壕をめざしてくる。その日のうちに救援列車に飛び乗り、長崎をあとにする。街は中天まで炎が舞い上がっている。

佐世保の早岐小学校にて傷の手当て受け、同相ノ浦より五島行きの漁船に便乗。漁船を

乗り継ぎ故郷についたのが11日の夕方。イカ釣りに出ようとしていた父が私の姿を見て、「姉さんは」と言われてはじめて姉の消息に気付く。私の姿を見た漁に出ようとしていた村人が、あの真っ赤な空は長崎だったのかと。長崎の縁のある村人數人で船をチャーターして長崎に向かう。

やがて終戦。姉の消息もわからないままよう然と帰った父の姿が忘れられない。

父の話では、街中焼け野原、方角すら分からず、焼け焦げ燐(ただ)れた死体の山。あのような中に1人の娘をさがすことなど容易ではなく、生きているのか死んでいるのか確認もできずに帰ったと嘆く。

故郷にて仕事も手に付かず、18才になつた所で職を求めて都会を目指す。ある炭坑に就職、被爆者と口をすべらしたため、差別の嵐にさらされる。

放射能は人にうつる。白血病にかかるといつぱっくり死ぬか分からぬ。被爆者に嫁にやる親などいない。子供が即使ても障害者が生まれる。被爆者と知った友人も次々に遠ざかる。交際中の女性のご両親からは、娘と交際するのは止めてほしい、と。被爆者というだけでまるで犯罪者を見るよう。声を大きくして俺は好きで被爆者になった訳ではないと叫びたい衝動にかられる。

縁があって結婚できた。もちろん被爆者ということを明らかにして理解ある義父母に恵まれた。それ以来、被爆者ということに口をつぐむことにした。子供も悩んでいたが五体満足な子に恵まれた。口をつぐんだのも子供の進学・就職・縁談のさまざまな支障を考えたからだ。あれ以来、長崎には足を向けていない。

しばらくして姉の消息が分かった。(次回)

## ポルトガルの日本最初の根拠地②

秋吉久紀夫

「もし、カトリック教会がポルトガルとかイスパニアの世界制覇を奨励せず、奴隸獲得を承認したりしなかつたら現在進行形の資本主義の隆盛も、その体制下に非人間的な日々を強いられている何億という人々もいなかつたとは言えないでしようか。奴隸制度がなければ新大陸でのプランテーションはなく、綿花がなければ産業革命はなく、技術と市場の世界的拡大がなければ、被植民地下の世紀にわたり隸從も極貧も、そして、一極霸權主義の雄叫びも、なかつたと思えてなりません。そしてそのスタートラインとなつた大航海時代にカトリック教会は決定的な役割を果たしていたのです。現在につながつてはいる決定的な役割を……」と述べている。

それを公認する学者もいる。

板橋勉氏である。彼は『聖サヴィエルと平戸切支丹』の中で、「ポルトガルを隆盛に導いたのはジョアン一世の王子ヘンリー航海親王（1394～1460）である。彼は一つにはポルトガルの国富を増すために、また一つには巨費を要する彼自身の事業の資金を補うため、貿易によって利益を収めんとした。その貿易は奴隸貿易を中心としたものであつた。ポルトガルの南部一帯は荒れた地が多く、貴族も寺院もこれを開拓する努力を切望していたので奴隸の需要ははなはだ大であり、その売買は最も有利な取引であつた。ポルトガルの人口は一五〇〇年に約百十萬、一五三二年に百三十二萬六千と推定される。すなわち十六世紀初頭の人口密度は一平方キロメートルにつき十

年には国外から穀物を輸入せねばならなかつた。親王はまずカナリー群島の土人を捕まえることによつて、奴隸狩りを訓練せしめた後、サワラ砂漠の海岸において捕獲すべき黒人を求めしめた。そして一四四八年にいたり、彼の派遣した船隊が、ギニアより黒人九二七人を、輸入するに及んで、国民は初めて彼の事業の価値を認めた。彼の死後、急速度に行われた探検によって、いわゆる「ギニア」の極度三〇分の東をポルトガルに、西教皇が、一五〇六年に、大西洋上のヴェルデ岬諸島の西、西径四十六度三〇分の東をポルトガルに、西をスペインに委ねたことである。

フリカ大陸の形状も察知せられ、これとともに海路インドに至らんとする希望が生まれ、ギニア征服よりもはるかに有利な東洋貿易が至つた。すなわちポルトガルの東洋貿易の基礎は、ヘンリー航海王によつて、エマヌエル幸福王が一四九六年、ヴァスコダガマを、インド遠征の指揮者に任命することによって、端緒を開いたのである。」

ドウム・ティヴェル  
(DumDivesas)

一四五二年六月一八日の東西の相反する方向への宣教活動の許可で、地球を東西に分割しての宣教である。

記している。

ところで、この教皇の「海外布教保護権 (Padroado) とは何だろうか。それにはローマ教皇の存在を無視するわけにはゆかない。その発端は、一四九三年に、時教皇アレクサンデル六世が、先ずポルトガルとスペイン二国の領域を定め、次いで、ユリウス二世をスペインに委ねたことである。フリカ大陸の形状も察知せられ、これとともに海路インドに至らんとする希望が生まれ、ギニア征服よりもはるかに有利な東洋貿易が至つた。すなわちポルトガルの東洋貿易の基礎は、ヘンリー航海王によつて、エマヌエル幸福王が一四九六年、ヴァスコダガマを、印度遠征の指揮者に任命することによって、端緒を開いたのである。」

(次につづく)

## 教区信徒協研修会

森山信三神父が語ります。



“社会の中の教会”を目指し、今、私たちに何ができるかを考え、分かち合う研修会です。

- ・申し込みは信徒協役員
- ・当日参加も可能です。
- ・弁当予約は9月16日まで

とき／9月23日(月) 10時20分～

ところ／カトリック大名町教会

どなたでも参加できます。無料

## 福岡教区国際ミサのお知らせ

日時：10月20日(日)午後1時30分～

場所：大名町教会聖堂(宮原司教司式)

\*ミサ奉納として、各地区参加者によるパフォーマンスを予定しています。

どうぞご参加ください。

詳細は「共に生きる」10月号でお知らせします。

担当：有吉

日本漫画家協会  
日本漫画家会議



山 透 さんの諷詩

ペア  
ツタリ  
アメリカ  
国防軍  
改定  
憲法  
日米同盟強化  
から

私は、戦争犯  
罪人  
岸信介の孫  
安倍晋三です  
許してもらつた  
あいさんために  
私はアメリカさんに  
ご恩返しをします

誓い

だまつておねなくなつて



ツイッター

ビックリしたあ～(中)

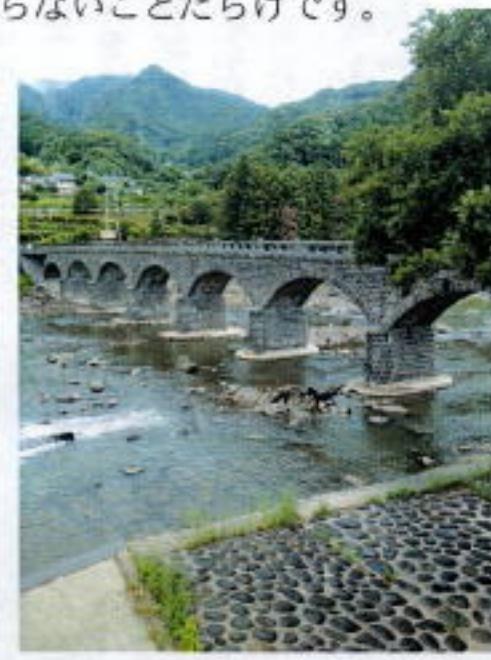
野峠を越えて英彦山へ向かう途中、添田方面へ降りる道があります。この道は初めてなので慎重に運転していました。山奥なのですれ違う車もなく、順調に人里近くまできました。ようやく前方に走る車が見えました。その車がカーブを曲がり直進。私たちの車もカーブを曲がり…とその時、右前方から大きな動物が目の前を横切りました。鹿です。シカと見ました。車中は大騒ぎ。「見た！みた！ミタ！」ビックリしたのは飛び出した鹿の方かも。

パソコンは簡単？難しい？(A)

妹が置いていった新品同様のパソコン。仕事で必要になるからと思い、コンセントを差し込み起動を待ちました。いつまで経っても閉じたまま。説明書には、電源を入れると自動的にとあります。電源入れてるので。母に聞いても無駄でした。父に聞いて…もダメでした。父は「おい、パソコン本体が無いぞ」と。ディスプレーに組み込まれているので、あるわけないのに。起ち上げが超難関でした。

オランダ橋 (みな)

耶馬渓青の洞門の入口にありました。  
知らないことだらけです。



上には上がる… (もり)

先月号の発泡酒が6本で468円。いやいや440円くらいのがありましたよ。修道院近くの量販店に。この場合、「上には上がる」じゃなく「下には下が」と言うべきかな。

100円で感動！ (田)

この夏、「映画原爆の子」を観ました。戦後初の“原爆を題材にした映画”と言われています。1952年ですから昭和27年の映画です。アメリカはこの作品に圧力をかけ、外務省もカンヌ映画祭で受賞せぬよう妨害し、西ドイツでは反戦映画として押さえ込まれたようです。でも多くの賞をとったことから、反核映画の第1号となりました。

そう聞くと一刻も早く見たくなりレンタルショップに電話…ありました。なんとまあ乙羽信子の若いこと(これは余談)、今に通じる映画で感動です。内容はここでは言えませんが、とにかくいい。そして100円で見られるのもいいですねえ～。

# 沖縄愛楽園と佐喜眞美術館の見学

中光(沖縄在住・20代)



佐喜眞美術館は宜野湾市北東部にあり、私も初めての入館でした。宜野湾市といえば普天間基地が市の人真ん中にあり、米軍でさえ「世界で最も危険な基地」と言わざるを得ないほど住宅地と隣接しています。ただ、米兵にとつて危険なのか、沖縄住民にとつて危険なのか、主語が判りませんが、ここに来れば一目瞭然危険さがわかると思います。その普天間基地の一部が1992年に返還された時、佐喜眞道夫さんが一角を買い取つて作つたのが「佐喜眞美術館」です。美術館のテーマは、生と死、苦悩と救済、人間と戦争です。館内に常設展示されているのが「沖縄戦の図」で縦4メートル、横8・5メートルの巨大な作品です。丸木位里さんと俊さんが沖縄戦を体験した人々をモデルに描いたものでパンフレットには「あの絵は、沖縄戦を体験された沖縄の人々と私たちの共同制作です。」とありました。この絵の左下方には次のように書かれています。

恥かしめを受けぬ前に死ね  
手りゆうだんを下さい

鎌で鍔でカミソリでやれ  
親は子を夫は妻を  
若ものはとしよりを  
エメラルドの海は紅に  
集団自決とは手をくださない虐殺である

丸木夫妻の絵と文は、何も体験したことのない私にでさえ強く強く心に響くものがありました。この美術館のもうひとつの見所は、建物そのものにあ



屋上の階段。手前が6段  
奥が23段。6月23日の夕日  
が最上段の円内に輝きます。



美術館横の住宅地。手前のフェンスと緑の樹木は普天間基地内です。住民の土地が狭いのでフェンスに添って駐車しています。

## 編 集 後 記

“長崎の原爆被爆の惨状を風化させず…”との願いから「ノーモア・ヒバクシャ」の絵本が出来ました。谷口稜暉さんと山口仙二さんの被爆体験を描いたのですが、リアルであるがゆえ伝わるものがあります。一方、松江市教育委員会が「はだしのゲン」を閲覧できないように閉架措置をとったことで疑問が広がりました。(8/26撤回) 作者の中沢啓治さんは「若い世代に原爆の脅威を伝えたい」と自体験を元に漫画を連載しました。1ヶ月前、NHKクローズアップ現代でも取り上げられ、今やアメリカの学校でもこれを題材にしていると。絵本も漫画も読手の琴線に触れるのは、過激描写うんぬんではなく、ノーモア・ヒバクシャでありノーモア・ウォーなのです。(瀬下)

ります。「沖縄戦にこだわつて6月23日(慰靈の日)の太陽の日没線に合わせてつく」つた(パンフレット)そうで階段が6段と23段になっています。屋上からは普天間基地と海が見渡せます。本土から来られた方は、基地の広さに驚きますが、毎日の生活をこの地で営んでいる私たちは、爆音に悩まされ、墜落事故等の不安を抱えています。沖縄差別を感じる毎日です。また沖縄には原発がありません。原発の危険さをアメリカは十分知っていますから、米軍とその家族が住むここには日本政府は原発誘致をしないでしよう。この場合の危険は「アメリカ人にとっての危険」であり、沖縄県民にとって危険だからではないと思います。

ハンセン病療養所愛楽園と佐喜眞美術館の見学は、沖縄の人も含め観光で来られる方にもぜひ立ち寄つてほしいところです。その後で、ちゅら海水族館と首里城見学をしてくださいね。